

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

**特許第3811139号
(P3811139)**

(45) 発行日 平成18年8月16日(2006.8.16)

(24) 登録日 平成18年6月2日(2006.6.2)

(51) Int. Cl.

A 4 4 C 7/00 (2006.01)

F I

A 4 4 C 7/00

A

請求項の数 2 (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願2003-127370 (P2003-127370)
 (22) 出願日 平成15年5月2日(2003.5.2)
 (65) 公開番号 特開2004-329443 (P2004-329443A)
 (43) 公開日 平成16年11月25日(2004.11.25)
 審査請求日 平成15年5月2日(2003.5.2)

(73) 特許権者 397024960
 株式会社柏圭
 東京都港区新橋2丁目19番3号
 (74) 代理人 100072453
 弁理士 林 宏
 (74) 代理人 100114199
 弁理士 後藤 正彦
 (74) 代理人 100119404
 弁理士 林 直生樹
 (72) 発明者 小寺 智子
 東京都港区新橋2-19-3 株式会社柏圭内

審査官 氏原 康宏

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ピアス

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

取付ピンの一端に第1の飾体を設けたピアス本体と、該取付ピンに嵌着するキャッチとからなるピアスにおいて、

上記キャッチが、上記取付ピンが挿入・嵌着されるキャッチ本体と、該キャッチ本体に一体的に突出して設けられると共にその先端に第2の飾体を固定した支持体とを有し、

上記キャッチ本体が、上記取付ピンの直径よりも小径で上記取付ピンが挿入される挿通孔を有するシリコンゴム体をその内部に有し、該シリコンゴム体と上記取付ピンとの摩擦力によって上記取付ピンをその挿入位置で上記キャッチ本体に嵌着可能にし、

上記キャッチ本体が、上記シリコンゴム体を収納する空間及び該空間を囲む蓋部、周壁部、底壁部を備えた筒状体を有し、蓋部と周壁部とは別体に形成して結合され、底壁部は周壁部と一体に形成されており、

該蓋部が上記取付ピンが挿入される挿通孔及び上記取付ピンを該挿通孔に案内するテーパ状の案内部を有し、

該筒状体の周壁部に上記支持体が一体的に設けられ、かつ支持体は筒状体の周壁部から半径方向に突出している、

ことを特徴とするピアス。

【請求項2】

上記ピアスを耳に装着した時に、上記第2の飾体だけが耳の周囲から見えるように、上記支持体の長さを丁度耳の後ろに隠れるような長さにした、

10

20

ことを特徴とする請求項 1 に記載のピアス。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、ピアスの改良に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

ピアスは、よく知られているように、貴金属や宝石などによって構成された装飾体を取付ピン的一端に取付けると共に、該取付ピンの他端を通常耳たぶに設けた孔に挿通し、耳の後側（裏側）でキャッチで止めるようになっている。

10

また、図 3 に示すように、耳の表側に取付けられる第 1 の装飾体 110 のほかに、耳の裏側に第 2 の装飾体 120 が取付けられ、該装飾体 120 は第 1 の装飾体 110 が一端に取付けられた取付ピン 112 の他端側に取付けられた L 字状の支持ピン 122 の一端に取付けられ、該支持ピン 122 の他端には上記取付ピン 112 を挿通するための複数の位置決め穴 124, 126, 128 が設けられ、上記取付ピン 112 の他端近傍に設けた溝 114 にキャッチ 116 を係止させたピアスは従来公知（例えば、特許文献 1 参照）である。

【0003】

しかし、上記従来公知のピアスは、第 1 の装飾体 110 が一端に取付けられた取付ピン 112 と、第 2 の装飾体 120 が取付けられた L 字状の支持ピン 122 と、上記取付ピン 112 の他端を係止するキャッチ 116 の 3 つの部品で構成されるため、部品点数が多く、装着・脱着が不便であった。

20

また、上記取付ピン 112 の他端近傍に設けた溝 114 にキャッチ 116 を係止させているため、上記取付ピン 112 の軸方向におけるキャッチ 116 の係止位置は常に溝 114 の位置であり、キャッチ 116 の係止位置を自由に変えることはできなかった。

また、L 字状の支持ピン 122 は、取付ピン 112 の他端側にぶら下がった状態で取付けられるため、第 2 の装飾体 120 は耳たぶの下部にしか飾ることができなかった。

【0004】

【特許文献 1】

特開 2001 - 149119 号公報

【0005】

30

【発明が解決しようとする課題】

本発明の課題は、このような問題を解決し、耳の裏側から取付けられる第 2 の飾体を有するものでありながら部品点数が少なく、装着・脱着が簡単なピアスを提供することにある。

本発明の他の課題は、第 2 の飾体を耳の下部だけでなく耳の横位置にも飾ることができるピアスを提供することにある。

更に、本発明の他の課題は、見た人に意外性を感じさせることができるピアスを提供することにある。

更に、本発明の他の課題は、手持ちの別のピアス本体も使用可能なピアスを提供することにある。

40

【0006】

【課題を解決するための手段】

上記課題を解決するための本発明のピアスは、取付ピン的一端に第 1 の飾体を設けたピアス本体と、該取付ピンに嵌着するキャッチとからなるピアスにおいて、上記キャッチが、上記取付ピンが挿入・嵌着されるキャッチ本体と、該キャッチ本体に一体的に突出して設けられると共にその先端に第 2 の飾体を固定した支持体とを有し、上記キャッチ本体が、上記取付ピンの直径よりも小径で上記取付ピンが挿入される挿通孔を有するシリコンゴム体をその内部に有し、該シリコンゴム体と上記取付ピンとの摩擦力によって上記取付ピンをその挿入位置で上記キャッチ本体に嵌着可能にし、上記キャッチ本体が、上記シリコンゴム体を収納する空間及び該空間を囲む蓋部、周壁部、底壁部を備えた筒状体を有し、

50

蓋部と周壁部とは別体に形成して結合され、底壁部は周壁部と一体に形成されており、該蓋部が上記取付ピンが挿入される挿通孔及び上記取付ピンを該挿通孔に案内するテーパ状の案内部を有し、該筒状体の周壁部に上記支持体が一体的に設けられ、かつ支持体は筒状体の周壁部から半径方向に突出することを特徴とするものである。

【 0 0 0 7 】

上記本発明のピアスの好ましい実施の形態においては、上記ピアスを耳に装着した時に、上記第 2 の飾体だけが耳の周囲から見えるように、上記支持体の長さを丁度耳の後ろに隠れるような長さに形成される。

【 0 0 0 8 】

上記ピアスは、キャッチ本体に一体的に突出して設けられた支持体の先端に第 2 の飾体を設けているため、耳の表側に取付けられる第 1 の飾体のほかに、耳の裏側から取付けられる第 2 の飾体を有するものでありながら、ピアスの部品点数を減少させることができる。また、部品点数を減少したことと、ピアスを装着・脱着する際に上記支持体を把持部材として利用することにより、ピアスの装着・脱着が従来のものより簡単になる。

【 0 0 0 9 】

また、上記ピアスは、キャッチ本体が、取付ピンの直径よりも小径で取付ピンが挿入される挿通孔を有するシリコンゴム体をその内部に有しているため、該シリコンゴム体と上記取付ピンとの摩擦力によって上記取付ピンをその挿入位置で上記キャッチ本体に係止させることができる。

したがって、取付ピンの先端に第 1 の飾体を設けたピアス本体を耳たぶの通し穴に挿通した後、キャッチ本体を上記取付ピンに挿入し、キャッチ本体を回動させて第 2 の飾体が耳たぶの周囲の好みの位置に来た時点でキャッチ本体を耳たぶ側に押し付けるか、または、キャッチ本体を耳たぶに押し付ける位置まで挿入してから、第 2 の飾体が耳たぶの周囲の好みの位置に来るようにキャッチ本体を回動させると、キャッチ本体をこの回動位置で耳たぶに取付けることができる。

【 0 0 1 0 】

そして、上記ピアスはキャッチ本体を回動させた位置で耳に取付けることができるため、第 2 の飾体を耳の下部だけでなく耳の横位置でも飾ることができる。

また、上記ピアスを耳に装着した時に、第 2 の飾体だけが耳の周囲から見えるように、支持体の長さを丁度耳の後ろに隠れるような長さにすると、見た人に第 2 の飾体がなにも支持されていないのに耳の周囲にあるという意外性を感じさせることができる。

【 0 0 1 1 】

また、上記シリコンゴム体は弾性を有するため、挿通孔が取付ピンの直径より小径でも取付ピンを挿通孔に挿入でき、また、取付ピンの直径が多少大きかったり小さくても取付ピンをシリコンゴム体の挿通孔に挿入・係止でき、そのために手持ちの別のピアス本体を用いることもできる。

また、上記キャッチ本体が、上記シリコンゴム体を収納する空間及び該空間を囲む蓋部、周壁部、底壁部を備えた筒状体を有し、該蓋部が上記取付ピンが挿入される挿通孔及び上記取付ピンを該挿通孔に案内するテーパ状の案内部を有し、該筒状体の周壁部に上記支持体が一体的に設けられていると、支持体を把持部として利用できると共にピアス本体の取付ピンをキャッチ本体の挿通孔に容易に挿入できる。

【 0 0 1 2 】

【 発明の実施の形態 】

図 1 は、本発明に係るピアスの一実施例を示す一部断面側面図である。

該ピアスは、取付ピン 2 の一端に第 1 の飾体 3 を設けたピアス本体 1 と、該取付ピン 2 を係止するキャッチ 4 とから成り、該キャッチ 4 は上記取付ピン 2 が挿入・係止されるキャッチ本体 5 と、該キャッチ本体 5 に一体的に突出して設けられると共にその先端に第 2 の飾体 7 を設けた支持体 6 とを有している。

【 0 0 1 3 】

上記キャッチ本体 5 は、取付ピン 2 の直径よりも小径で取付ピン 2 が挿入される挿通孔 1

10

20

30

40

50

0 aを有する筒状のシリコンゴム体 1 0 と、該シリコンゴム体 1 0 を収納する空間をその内部に備えた筒状体 1 1 とを有し、該筒状体 1 1 は蓋部 1 2、周壁部 1 3 及び底壁部 1 4 を備え、これらの部材で囲まれた空間に該シリコンゴム体 1 0 が隙間が生じないようにきつめに収納されている。

上記蓋部 1 2 は上記周壁部 1 3 と別体であるが、螺着、嵌着またはその他の周知の固着手段により両者は一体的に結合されており、上記底壁部 1 4 は上記周壁部 1 3 に一体に形成されている。

【 0 0 1 4 】

また、上記筒蓋部 1 2 は、上記取付ピン 2 が挿入される挿通孔 1 2 a 及び上記取付ピン 2 を該挿通孔 1 2 a に案内するテーパ状の案内部 1 2 b を有しており、また、上記底壁部 1 4 は、上記蓋部 1 2 の挿通孔 1 2 a と同心の上記取付ピン 2 が挿入される挿通孔 1 4 a を有している。

10

また、上記支持体 6 は、上記筒状体 1 1 の周壁部 1 3 から半径方向に突出すると共に、その先端側が上記筒状体 1 1 と平行で上記第 1 の飾体 3 と同じ側になるような略 L 字状をしている。

そのため、上記支持体 1 1 を把持しやすいと共に、上記ピアス本体 1 の取付ピン 2 をキャッチ本体 4 の蓋部 1 2 の挿通孔 1 2 a に容易に挿入できる。

また、上記取付ピン 2、筒状体 1 1 及び支持体 6 は金属製であり、上記第 1 の飾体 3 及び第 2 の飾体 7 としては、宝石あるいはその模造品等が用いられる。

【 0 0 1 5 】

20

上記シリコンゴム体 1 0 は弾性を有しているため、上記挿通孔 1 0 a が取付ピン 2 より小径でも取付ピン 2 を挿通孔 1 0 a に挿入したり挿通孔 1 0 a 内を直動あるいは回転させることができる。

また、キャッチ本体 5 に取付ピン 2 が挿入されると、挿通孔 1 0 a が取付ピン 2 の直径よりも小径であるため、挿通孔 1 0 a の内周面が取付ピン 2 により半径方向に押圧され、また、キャッチ本体 5 内にきつめに収納されたシリコンゴム体 1 0 の外周面が筒状体 1 1 の周壁部 1 3 に押圧されるから、キャッチ本体 5 とシリコンゴム体 1 0 及びシリコンゴム体 1 0 と取付ピン 2 との間には大きな摩擦力が生じ、該摩擦力によりキャッチ本体 5 と取付ピン 2 は互いに係止される。

【 0 0 1 6 】

30

上記ピアスは、上記シリコンゴム体 1 0 による摩擦力によって上記取付ピン 2 をその挿入位置で上記キャッチ本体 5 に係止させることができるため、ピアス本体 1 の取付ピン 2 を耳たぶの通し穴に挿通した後、該取付ピン 2 にキャッチ本体 5 を挿入し、該キャッチ本体 5 を回転させて第 2 の飾体 7 が耳たぶの周囲の好みの位置に来た時点でキャッチ本体 4 を耳たぶ側に押し付けるか、または、キャッチ本体 5 を耳たぶに押し付ける位置まで挿入してから、第 2 の飾体 7 が耳たぶの周囲の好みの位置に来るようにキャッチ本体 4 を回転させると、キャッチ本体 5 をこの回転位置で耳たぶに取付けることができる。

この場合、略 L 字状の上記支持体 6 が筒状体 1 1 の周壁部 1 3 から半径方向に突出しているため、支持体 6 を把持部として利用でき、キャッチ本体 5 を回転させるのに好都合である。

40

【 0 0 1 7 】

図 2 は、本発明に係るピアスを耳に装着した状態を示す図であり、第 2 の飾体 7 が耳たぶの横位置に来るようにキャッチ本体 5 を回転させた状態で耳たぶに取付けているが、キャッチ本体 5 を耳たぶ側に押し付けた状態でキャッチ本体 5 と取付ピン 2 がシリコンゴム体 1 0 による摩擦力によって互いに係止しているため、キャッチ本体 5 に突出して設けられた支持体 6 に重力による曲げモーメントが掛かるにもかかわらず支持体 6 は回転位置を保持している。

【 0 0 1 8 】

また、上記ピアスを耳に装着した時に、第 2 の飾体 7 だけが耳の周囲から見えるように、支持体 6 の長さを丁度耳の後ろに隠れるような長さにすることができ、第 2 の飾体 7 だけ

50

が耳の周囲から見えるようにした場合には、これを見た人に第２の飾体がなににも支持されていないのに耳の周囲に浮かんでいるという意外性をもたせることができる。

また、上記ピアスは、ピアス本体１とキャッチ４の２つの部品だけで構成されているため、耳の裏側から取付けられる第２の飾体を有するものでありながら部品点数が少なく、そのため、装着・脱着が簡単である。

【００１９】

また、キャッチ本体４を構成する筒状体１１の周壁部１３に略Ｌ字状の支持体６が一体的に設けられているため、該支持体６を把持部として利用することができ、そのため、ピアスを装着・脱着する際や第２の飾体７の位置を変更するためにキャッチ本体５を回転させる際に好都合であり、また、筒状体１１の蓋部１２が、取付ピン２が挿入される挿通孔１

10

【００２０】

以上、本発明の実施の形態のピアスについて詳述したが、本発明は、上記実施の形態に限定されるものではなく、本発明の特許請求の範囲に記載されている発明の精神を逸脱しない範囲で、設計において種々の変更ができるものである。

【００２１】

【発明の効果】

以上に詳述した本発明によれば、耳の裏側から取付けられる第２の飾体を有するものでありながら部品点数が少なく、装着・脱着が簡単であり、第２の飾体を耳の下部だけでなく耳の横位置にも飾ることができ、見た人に意外性を感じさせることができ、手持ちの別のピアス本体も使用可能なピアスを提供することができる。

20

【図面の簡単な説明】

【図１】本発明に係るピアスの一実施例を示す一部断面側面図である。

【図２】本発明に係るピアスを耳に装着した状態を示す図である。

【図３】従来のピアスを示す図である。

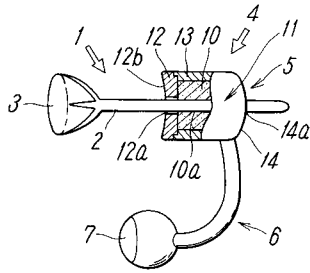
【符号の説明】

- １ ピアス本体
- ２ 取付ピン
- ３ 第１の飾体
- ４ キャッチ
- ５ キャッチ本体
- ６ 支持体
- ７ 第２の飾体
- １０ シリコンゴム体
- １０a 挿通孔
- １１ 筒状体
- １２ 蓋部
- １３ 周壁部
- １４ 底壁部

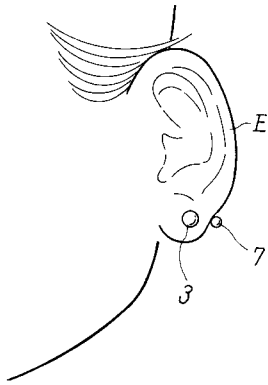
30

40

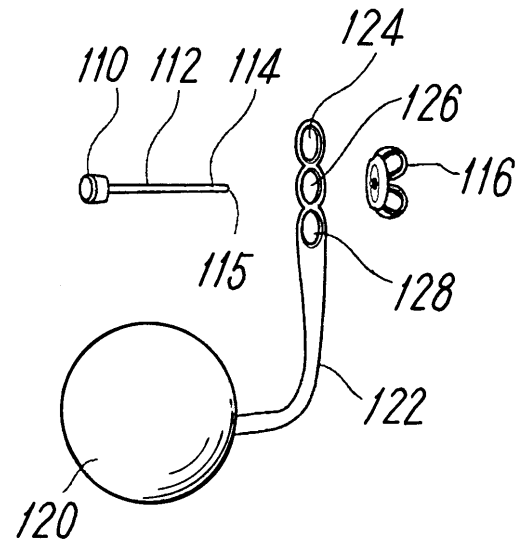
【図 1】



【図 2】



【図 3】



フロントページの続き

- (56)参考文献 特開2001-149119(JP,A)
登録実用新案第3018154(JP,U)
特開平08-280427(JP,A)
登録実用新案第3045812(JP,U)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
A44C 7/00